



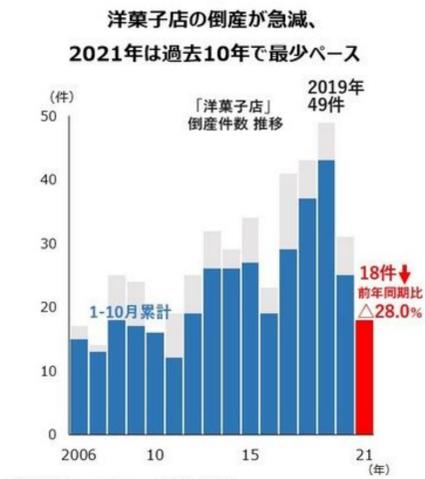
スイーツ開発で水俣をより良くするために

○氏名 森日芽 中村早希 窪田夢香 江口采那 六車希空

水俣高校

研究の背景と目的

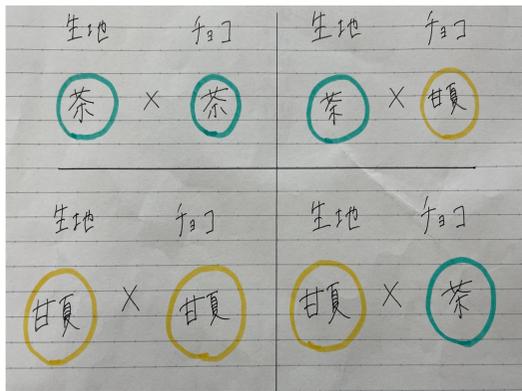
水俣の観光客が少ないことに気づき、水俣の特産品を使って、お菓子を作り、観光客を増やすことができないかと考えたから。なぜ私達がスイーツを選んだかという、コンビニスイーツは安価で高品質、充実した品揃えで利便性もいいことから客足を奪われていたが、コロナ禍になり巣ごもり需要が拡大し自宅で食べるスイーツ需要が拡大したことにより洋菓子店に客足が戻ってきているという記事を読んだから。右は洋菓子店の倒産を表した図である。



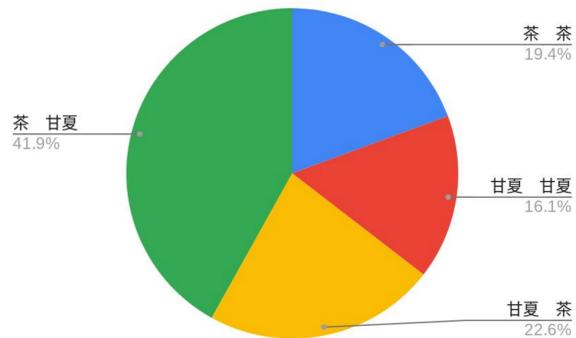
【注】負債額1000万円以上の法的整理が対象
『PRTIMES』より
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000372.000043465.html>

結果および考察

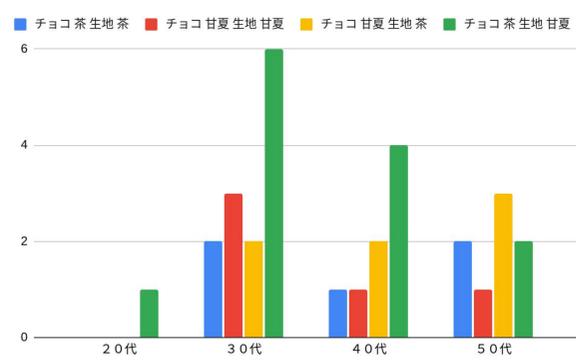
「実際に作ってもらったレモンケーキ」



今回は時間の都合上、レモンケーキのみ、試作品を作ってもらった。



私達は先生方に試食をしてもらい、アンケートを行った。左の円グラフはどの組み合わせが一番良かったかの総数を表している。グラフから、チョコがお茶で生地が甘夏の組み合わせが一番好評だった。



左の棒グラフは年代別にどの組み合わせが一番良かったかを表している。グラフから、全体的にみてチョコがお茶で生地が甘夏の組み合わせが一番好評だった。

「水俣の現状」

- ・観光客が少ない
- ・話題になるものがない

「現状を踏まえ、何に着目するのか」

高校生が地元の特産品を使い商品開発をしたことによって、地域が活性化したという事例を話題になるための手段として参考にした。観光客が少ないという今の現状を変えるために、スイーツに着目した。

「仮説」

高校生と共同開発したことが話題になって観光客が増える。

方法

「調査の方法」

- ・9月中旬: 鬼塚日昭堂さんに協力してもらえるか訪ねた
- ・9月下旬: 道の駅に行って水俣の特産品を調べに行った
- ・10月上旬: 商品の案の絵を書き提出した
- ・1月下旬: 商品の案がどうなったのか話を聞きに行った
- ・2月上旬: 試作品を自分たちだけではなく先生方にも食べてもらい、アンケートをとった

「私達が提案したスイーツ」

クッキー

中村早希 考案→

生地に水俣のお茶を混ぜる



ケーキ

江口采那 考案→

水俣甘夏を使用
ケーキ下の生地は水俣のお茶を使用



シュー

森日芽 考案→

水俣の甘夏とお茶を使った生地とチョコを使用



トフィン

六車希空 考案→

生地とクリームに水俣の甘夏を使用
クリームには果肉



まとめ

今回私達は、水俣の観光客を増やすために取り組み水俣の特産品を使いスイーツの開発の提案を行った。まだスイーツの開発提案をただけで販売まで携われなかった【観光客が増えた】という結果を得ることができていない。スイーツをあまり好きではない人はどれも選ばない傾向にあった。

「今後の展望」

今回はレモンケーキを実際に作ってもらったが、今後機会があれば他の3つも作ってもらいたいと考えた。可能であれば商品化して、SNSなどを使いながら広報に携わり地元だけでなくたくさんの人に手に取ってもらいたいと考えている。

謝辞: 鬼塚日昭堂 さんに厚く御礼申し上げます。



今回は私達の突然の依頼を引き受けてくださりありがとうございました。何ヶ月も日昭堂さんに伺えないときがあったけれど最後まで協力してくださってありがとうございました。鬼塚日昭堂さんが美味しいスイーツを作り水俣がより良くなることを願っています。

参考文献

『観光統計表データ』
<https://kumamoto.guide/statistics/>